

月曜礼拝の法話

『弱いものだから、大切なのです』 親鸞聖人のお誕生日“降誕会”にて

白百合保育園では5月に降誕会（ごうたんえ）という礼拝をします。しんらんさまのお誕生日をお祝いしてするのが降誕会です。しんらんさまが教えてくれたほとけさまのお話は、

弱くて儂はげいものほど尊い（大切）ということです。

動物や虫の世界で考えてみましょう。動物や虫は強いものが生き残ります。強いことが良いことなのです。弱いものはご飯が食べられなくて死んでしまいます。その前に、ほかの動物や虫に食べられて死んでしまいます。

人間ではどうでしょう。強いものがお金や良い場所などを独り占めしたらどうなるでしょう。弱いものは何もなくて当然だと言われたら、どうですか。あなたが強い側だったら、隣の人が食べ物や住むところがなくて泣いているのを見て、どう思うでしょうか。

また、あなたが弱い側だったら、隣の人がいっぱい持っているのに自分は何もなくて苦しいというのは、どうでしょうか。

お互いに隣の人が持っているものを奪ってやろうとしたらどうでしょうか。けんかになりますね。

強いものが良いというのは、実は悲しみと争いばかりの世界なのではないでしょうか。そしてもうひとつ、今は強かったとしても、いつかは弱くなっていきます。これを儂いと言います。

お互いに自分は弱くて儂いものだと知らせてくれるのがほとけさまです。そのほとけさまの教えを聞いていくことが結局はしあわせになるんですよ、としんらんさまは教えてくれました。善い人（強い人）だって救われます。悪い人（弱い、儂い人）こそ救われます、というほとけさまの教えは、しんらんさまも他の人も救ってくれる教えです。その教えをひろめてくれたしんらんさまにありがとうの気持ちを込めて、お誕生日をお祝いするので。